

事業所における自己評価結果（公表）

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点や課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等スペースとの関係で適切であるか	○		基準に基づいた施設となっています。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか	○		配置基準に基づいた職員配置を行っています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか	○		トイレ、手洗い場、個々のロッカー等にイラストを貼り、視覚的に分かりやすくしています。利用の対象は、歩行可能な子どもですが、入口の段差は低く、スムーズに移動できています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		遊具類は適切に収納し、整理された保育室となっています。活動に合わせて、その都度机やイスを準備する等、環境の整備を行っています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか	○		必要に応じて保育室の全室や相談室を利用し、個別の対応をしています。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○		年間計画を立て、職員間で年間の反省を行い、次年度の業務に生かしています。
	7	保護者等向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか	○		年に一度アンケートを実施し、個々の意見を参考に業務改善を図っています。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか	○		職員間で話し合う場を設け意見を出し合い、業務改善を図っています。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○	外部評価については、行っていませんが、苦情解決に関する事項については、第三者委員を設置し業務改善に努めています。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会を確保しているか	○		西部療育センターで実施している研修の他、事業所内での研修やOJT、外部の研修にも参加しています。
	11	適切に年間カリキュラムが作成、公表されているか	○		年間カリキュラムを作成し、契約の際、保護者に渡しています。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		「お子さまの状況」を基に個々の聞き取りを充分に行い、作成しています。
	13	児童発達支援計画を作成する際は、児童発達管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか	○		職員間で意見を出し合い、個々に合わせた児童発達支援計画になるよう検討を重ねています。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか	○		職員全員が児童発達支援計画を熟読し、個々に合わせた支援を行っています。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか	○		発達検査や日々の記録を使用し、確認をしています。

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」、「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		個別面談での聞き取り、通園時の子どもの姿を基に、児童発達支援ガイドラインを踏まえた支援の項目、支援内容の設定を行っています。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		職員全員で検討し立案しています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		年間を通して、季節の行事等も取り入れながら、様々な活動や経験ができるようにしています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか	○		少人数のグループ活動が主ですが、自由遊び時等は個々のお子さんに応じた個別活動を取り入れています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援しているか	○		毎日の朝礼の中で、流れや役割の確認を行っています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		日々の振り返り時に気付いた点を職員間で話し、情報の共有を行っています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		個人記録に細かく記入をし、日々の支援に繋げています。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか	○		半期に一度モニタリングを行い、支援計画の見直しをしています。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか	○		利用計画はセルフプランで行い、西部療育センターとの密な連携を図っています。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行っているか	○		西部療育センターを中心に連携を取っています。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		必要に応じて療育見学の受け入れや電話相談、訪問等を行うことで関係機関（幼・保）との情報の共有を行っています。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか		○	3歳児を主に受け入れている為、現在は行っていません。
	28	（28～30は、センターのみ回答） 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか			
	30	（自立支援）協議会こども部会や地域のこども・子育て会議等へ積極的に参加しているか			

	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか	○		西部療育センターとは密に連携を取っています。また、年に数度のOJTを実施し、助言を受けています。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のないこどもと活動する機会があるか		○	殆どの子が幼稚園、保育園との並行通園の為、事業所としては企画していません。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		単独グループは送迎時やグループ懇談時、親子グループは活動の振り返り時に話しをしています。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか	○		年間、数度の学習会（R6年度は3回）やワークショップを実施しています。また、西部療育センターやゆうゆうセンターの講座についても案内しています。
保護者への説明責任等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		利用開始に当たり、運営規定の内容を踏まえた重要事項説明書と利用契約書の説明をしています。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか	○		児童発達支援計画作成の際は、必ず個別面談を行い保護者の意向を確認しています。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		児童発達支援計画を提示しながら支援内容の説明を行い、同意を得ています。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		年に三度の個別面談の他、随時相談に応じています。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか	○		父母の会はありませんが、グループ懇談や学習会、ワークショップ等を開催することで保護者間の交流の機会となっています。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		西部療育センターと連携し、速やかに対応しています。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか	○		定期的に「おたより」を発行しています。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか	○		個人情報取扱規定、マニュアルに基づき対応に注意しています。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		子どもの特性に応じて、絵カード等の視覚的な手がかりを活用することや簡潔なことばかけ等、情報伝達の配慮をしています。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○	実施できていません。地域の店舗等との触れ合い等の取り組みを企画していきます。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		マニュアルを整備しています。契約時に説明し、保護者の閲覧も可能です。火災、地震等の避難訓練も子どもたちと共に実施しています。

非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		BCPを策定し、定期的に避難訓練を実施し、職員の動きの確認をしています。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		セルフプラン作成の際の西部療育センターでの聞き取りを基に、契約時に再度確認をしています。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		契約時に医師の指示書を提出してもらい、詳細の確認をしています。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか	○		安全計画に基づいた安全対策の下で支援を行っています。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか	○		契約時、以後もおたよりや懇談時に災害時の避難先や感染症対策等についての話しをしています。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか	○		有事の際は、職員間の聞き取り、業務日誌やヒヤリハット事例集への記入等をし情報共有、再発防止に努めています。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		西部療育センターの、虐待防止・身体拘束適正化委員会及び職場内研修への参加をしています。また、事業所の運営が閉鎖的にならないよう、西部療育センターとの定期的な連絡会も実施しています。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○		事故の防止、緊急時等を除いて身体拘束を行わないことを契約時に保護者に説明しています。必要に応じて児童発達支援計画にも記載します。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。